

I-6

大切なコミュニケーションって？

<エピソード 1>

みち子さんは、出産を機にママ友が何人かでき、心強く思っています。子育てと家事の両立で息つく暇のない中、友だちの声を聞いたり、話を聞いてもらったりするとほっとすることがあります。

今日も、授乳中に着信です。赤ちゃんを片手に抱きながらメールを返信していると、いつものように、赤ちゃんはいつの間にかすやすや眠っていました。



Work①

いつの間にか眠っている赤ちゃんを見て、みち子さんはどんなことを思っているのでしょうか？

Work②

あなたは、みち子さんにどんな言葉をかけてあげたいですか？

<エピソード 2>

みち子さんは、赤ちゃんの夜泣きに悩まされています。そんな時、ママ友から、泣きじゃくる赤ちゃんを落ち着かせるためのツール（スマートフォンのサイト）を教えてもらいました。

さっそく、赤ちゃんにそのツールを見せると、だんだん泣き声が収まっていき、いつの間にか赤ちゃんは、スマートフォンの画面をじっと見つめるようになりました。この後、みち子さんは、この方法を何度か使いました。

Work③

このような場合、あなたは、みち子さんに、どんなアドバイスをしますか。

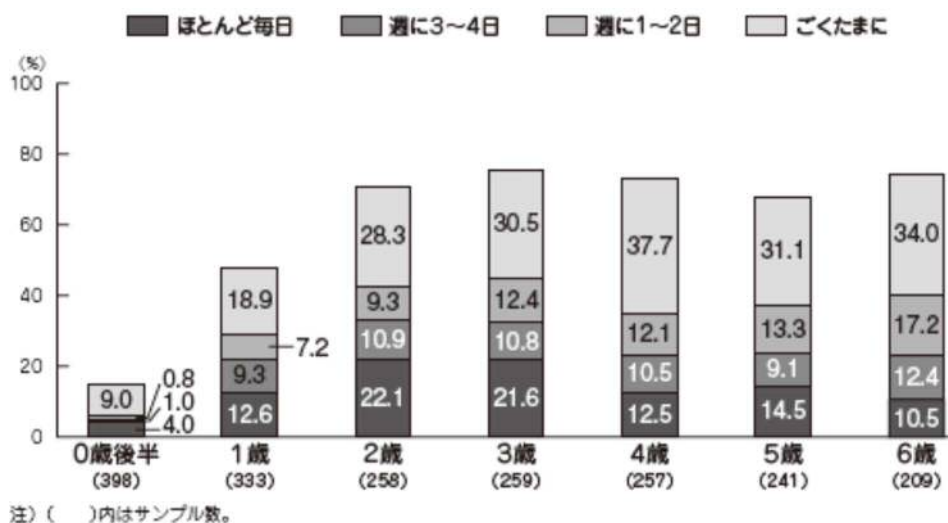


Work④

資料を見て、あなたは、どのようなことを思いますか。

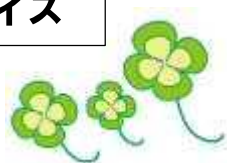
資料

母親がスマートフォンを使っている場合の
子どもの1週間のスマートフォン使用率



<2013年 ベネッセ教育総合研究所調査より>

アドバイス



愛着について



赤ちゃんのこころは未熟なままで生まれてきますが、大人とのかかわりを通して6～8ヶ月ころに愛着が形成されます。赤ちゃんが歩き始めるまでの時間が大切です。

愛着とは、特定の人に対して「自分の要求や感情を理解してくれる人といれば安心だ。」という気持ちのことで、特定の人に対する特別な情愛です。

赤ちゃんは自分が泣いたり、笑ったりしたときに、アイコンタクトをして近づいたり、優しく触れたりしてくれた人を特定の人として選びます。

赤ちゃんが発した「ああ～」とか「うっく～うん」などと言葉にならない声に対して、お母さんやお父さんが「どうしたの?」「ママ（パパ）はここだよ。」などと返答することが愛着を育てる基礎になります。

お誕生日が来るまでには、泣く理由がわからなかったり、人見知りをしたり、お母さんやお父さんを困らせることがたくさんありますが、愛着が形成された赤ちゃんは安心感を持ち行動範囲を広げていくことができます。この力をはぐぐむことができるのが、赤ちゃんの周りにいる特定の人達です。

<H27年度 愛知県市町村保健師協議会代表役員>